

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
537	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol use as a signal for sensitivity to nicotine dependence among recent onset smokers. 最近喫煙を開始した者における、ニコチン依存の感受性シグナルとしてのアルコール使用	
<b>執筆者</b>	
Dierker LC, Rose JS, Donny E, Tiffany S.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Addictive Behaviors 36 (2011) 421-426	
<b>キーワード</b>	
アルコール、喫煙、ニコチン依存	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 本研究は、極少量の喫煙によるニコチン依存に対する感受性がアルコールによって増長するかについて判断するため、アルコールがアルコールの使用、乱用、依存と喫煙との関連を評価した。	
<b>方法：</b> 5年間の薬物使用と健康に関する全国調査のデータを用いた。このデータには2年間でタバコに曝露し、1か月以内に少なくとも1回タバコを吸った12歳から21歳の人が含まれる。	
<b>結果：</b> アルコール乱用やアルコール依存症の両方は、ニコチンの許容範囲を上げると思われる症状の傾向の増大と関連していた。これらには、"あなたの喫煙量は増加している"、"満足するために、より多く喫煙が必要である"、"何かを感じる前にたくさん喫煙する"などの項目が含まれていた。乱用までいかないアルコール依存は以下の症状と関連していた、"喫煙しないでいた後、落ち着きがなくイライラしないために喫煙が必要となる"、"しばらく喫煙しなかった後、喫煙したくなる"、"タバコを切らすことを心配する"。これら全てはアルコール使用や喫煙料によらず関連があった。	
<b>結論：</b> 因果関係がある場合、アルコール使用障害の治療によって、新規の喫煙者のニコチン依存症の症状の早期発現を予防・減少させることができる。もしアルコール障害がニコチン依存に関する感受性のシグナルであり第三の変数として考えられるならば、喫煙への早期曝露期間にアルコール依存および/または乱用を起こした青少年は、この関連を直接ターゲットにした介入から恩恵を受ける重要なサブグループとなる。	